

「天は神の栄光を語り告げ」

(詩篇19・1～14)

一、天は神の栄光を語り告げ

1節を「ご覧ください。今日は神の栄光を語り告げ 大空は御手のわざを告げ知らせる。」と詩人は語っています。使徒パウロは、ローマ人への手紙の中で

「ローマ1・20a 神の、目に見えない性質、すなわち神の永遠の力と神性は、世界が創造されたときから被造物を通して知られ、はっきりと認められる。」と語っています。世界は神の被造物ですから、被造物を見るときに「神の永遠の力と神性」が「被造物を通して知られ、はっきりと認められる」というのです。たしかに、果てしなく広がっているように思える宇宙、そして果てしなく小さな世界まであることを考えますと、そこに「神の永遠の力と神性」があると、私共神を信じる者には思えます。

2節を「ご覧ください。『昼は昼へ話を伝え 夜は夜へ知識を不す。』とあります。詩人にとっては、日々が被造物の背後におられる神を見いだすことの連続であり、感動であったと思われれます。ですが、詩人を取り巻く「大自然」がはっきりと詩人に語りかけることはありません。3節に書かれているようにです。『話しもせず 語りもせず その声も

聞こえない。』と。ところが詩人には、世界を通して神が語りかけていることが分かったのでありましよう。

4節です。『しかし その光は全地に。』そのことは世界の果てまで届いた。』とあります。「光芒」と訳された元のことばの意味は「ひも」です。それを新改訳2017は「光のすじ」と理解したようです。ちなみに、これまでの訳は「叫び声」ないしは「響き」でした。

続いて詩人は、太陽について語っています。4節3行目から6節です。『神は天に 太陽のために幕屋を設けられた。花婿のように 太陽は部屋から出て 勇士のように 走路を喜び走る。天の果てから それは昇り 天の果てまで それは巡る。その熱から 隠れ得るものは何もない。』と。聖書の舞台となった古代オリエントにおいて、イスラエル以外は、どこにおいても太陽は神でした。ですが詩人は唯一なる神、創造主を知ることにより、太陽は神が定められたように活動していることを知っていました。

二、聖書は教える

続いて、7節です。『主のおしえは完全で たましいを生き返らせ 主の証しは確かだ 浅はかな者を賢くする。』とあります。ここから、それまでの内容と変わります。すなわち、「大自然」に現れている神の語りかけから、律法(ト

ラー)の話に変わります。『おしえ』と訳された元の言葉は「律法(トラー)」です。そして、『主の証し』『主の戒め』『主の仰せ』『主のさばき』は、すべて

律法(トラー)を指しています。すなわち、聖書を指しています。そういうわけで、10節までは律法(トラー)を授かっていることの感謝が語られています。私たちは、この一見つながらないような内容をどのように読んだらよいのでしょうか。どのように受け止めたらよいのでしょうか。それは、天地を造られた神の御意思は律法(トラー)によって表されているということです。

その律法(トラー)を、イスラエルがどれだけ慕い、どれだけ愛したのかを、10節が語っています。『それらは 金よりも 多くの純金よりも慕わしく 蜜よりも 蜜蜂の巣の滴りよりも甘い。』これが旧約の人々の、律法(トラー)に対する思いです。

イスラエルは律法(トラー)を授かりました。ですが19篇は、自分たちは律法(トラー)を授かったとして満足していません。詩人は語っています。12節です。『だが、自分の過ちを悟ることができないう。どうか 隠れた罪から私を解き放ってください。』と。実に私たちは知らずに犯す罪の多いことでありましよう。だから「私は完結しています」とは、思っていないことです。

さらに、14節は語っています。『私の口のことばと 私の心の思いとが 御前に受け入れられますように。主よ わが岩 わが贖い主よ。』と。神の恵みに生かされている人は、謙遜にさせられている人です。

三、御子によって語られた

さて、説教がここで終わってしまつたら、はなはだ不足です。神は御子イエス・キリストによって語られたからです。

19篇より、神は「大自然」、すなわち被造物によって語られていることを知りました。そして神は、イスラエルに御自身の名を示し、律法(トラー)をゆだねられました。これに加えて私共が知るべきは、神はイエス・キリストによって語っておられることです。ヘブル人への手紙1章2節に「この終わりの時には、御子にあって私たちに語られました。』とあります。神は御子イエス・キリストを遣わし、律法(トラー)によってはできなかつたことを実現させられました。それは、神の恵みによる罪からの救いです。

イエス・キリストを信じている方は、実に大きな恵みにあずかっています。その救いは、蜜よりも蜜蜂の巣の滴りよりも甘いもので、殺伐とした世にあつても、神のいのちをもたらす者として生かされています。